

●病院ホームページ <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/hospital/>

## ふれあい看護体験2010

本院では7月27日（火）、宮崎県内の高校生を対象に「ふれあい看護体験2010」を実施し、高校生27名が参加しました。

この取組は、看護師や医師を目指す高校生に医療の現場を実際に体験し、進路の参考にしてもらうことを目的としたものです。

高校生のみなさんは産科婦人科や整形外科などの各病棟で、担当の看護師から指導を受けながら、入院患者さんの食事の配膳、洗髪・足浴・清拭、血

圧測定などの様々な看護体験を通して、患者さんと触れ合うことができました。

体験を終えた高校生からは、「実際に患者さんの足を洗ったり、髪を洗ったり、普段はできないことを数多く体験することができてよかったです」「やつてみたかった聴診器で、初めて心臓の声（音）を聞くことができて、すごく感動した」などの感想が寄せられました。



看護を体験する高校生

## 小児科にピエロがやってきた

宮崎大学医学部国際医療保健研究会の学生グループは10月29日（金）、附属病院で闘病生活をおくる子どもたちに楽しんでもらおうと、「日本ホスピタル・クラウン（全国各地の病院を訪れる慰問活動を行う特定非営利活動法人）」のピエロを招きました。

入院中の子どもたちは、同協会のピエロが繰り

出す手品や風船を使った人形作りにおどろき、とても楽しんでいました。

同研究会の医学部看護学科2年の山口悠紀子さんは、「この活動を通して、病気で入院している子どもたちに少しでも元気になってもらい、良い思い出として心に残ってくれればうれしい」と語ってくれました。



# 医療最前線 -第三内科の取り組み-

## グレリン～新しいホルモン（ペプチド）による新たな治療法の探索～

病棟医長 佐野ありさ

私達第3内科は、神経内科、呼吸器、内分泌、代謝の4つのグループで構成されており、各グループが質の高い医療の提供を目指し日々努力しています。

今回は、本診療科で行われている、グレリンに関する臨床試験についてご紹介します。

グレリンとは1999年に発見された新しいホルモン（ペプチド）で、食欲亢進、エネルギー蓄積、抗炎症、心血管保護などの働きがあります。このヒトグレリンを経静脈的に投与すると、食欲や栄養状態、運動耐容能の改善、筋力増強、抗炎症などの作用があることが解明されました。

日常診療において、食欲不振や栄養障害は様々な疾患に伴って発生しうる問題であり、これまで効果的な治療法はありませんでした。そこでこのグレリンの特徴を臨床の場に応用すべく、本診療科では探索研究を行っています。

呼吸器グループでは、中里教授を班長とする厚生労働科学研究費補助金による2つの研究班で臨床研究を行っています。

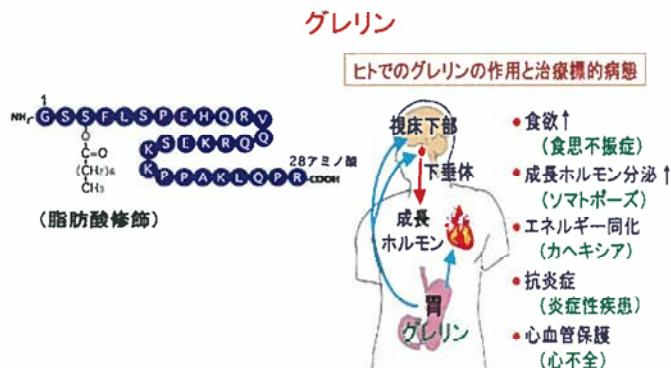
ひとつは「慢性呼吸不全に対するグレリンの臨床応用研究」です。肺気腫や肺結核後遺症をはじめとする慢性呼吸不全では、病状の進行とともに食欲不振、栄養障害、筋力低下などを来たし、生活の質（QOL）に影響を及ぼすのが現状で、病態を改善させる新たな治療法の開発が期待されています。この臨床研究では約4週間の入院期間で、グレリンの点滴を1日2回行いつつ下肢筋力トレーニングを行います。栄養状態や運動耐容能の改善が認められ、ADL（日常生活動作）が向上することが確認されています。

もうひとつは「癌医療におけるグレリンの包括的QOL改善療法の開発研究」です。我が国では癌が男女ともに死因の1位であり、その中では肺癌が男女ともに1位となっています。

抗癌剤治療は少しづつ進歩しているにも関わらず、癌治療に伴う患者および家族の苦痛は相変わらず甚大です。抗癌剤治療による食欲不振、体重減少、全身倦怠などはQOLを低下させるだけでなく治療中断に直結するため、QOLを維持・改善させる新たな治療法の開発が期待されています。グレリンの多彩な作用が患者に福音をもたらすことを期待して、今年中に臨床試験プロトコール（計画案）を確定し、実施できるよう準備を進めています。

そして代謝と神経グループは、糖尿病性神経障害に対するグレリンの効果の基礎研究を経て臨床研究を開始しています。糖尿病性神経障害は糖尿病の進行と共に発生し患者のQOLに大きく影響を及ぼすものです。現在進行を阻止する薬はあるものの、傷害された神経の修復効果は得られていません。グレリンの抗酸化作用や抗炎症効果や血流改善効果により、障害された神経細胞が修復され、しびれなどの自覚症状や伝導速度が改善することを期待して、臨床試験を行っており、少しづつ結果を積み重ねているところです。

このグレリンは、既存の薬とは異なり体内に存在する物質です。それを疾患の治療に応用することは独創的で安全性の高い方法であり、その確立のため臨床試験を進めております。また、新たな作用も徐々に明らかにされており、さらなる臨床への応用にも期待したいところです。



## 第3内科病棟の紹介

6階西病棟 看護師長 井上八千代

副看護師長 千賀美智代、竹田久美子、吉田亞希子

第3内科病棟（6階西病棟）は、呼吸器疾患、神経内科疾患、内分泌・代謝疾患を専門としている病棟です。そのため患者さんもそれぞれの病気の為の検査や治療を目的に入院しており、抗がん剤治療、インスリン治療、在宅酸素療法などが行われています。この中には、退院後も治療の継続が必要な患者さんや病気や年齢的な問題から日常生活の動きが不自由になる患者さんが多いのが特徴です。

そこで6階西病棟では「退院支援カンファレンス」を開催しています。これは、地域連携看護師長・ソーシャルワーカー・主治医・病棟看護師などを交えた話し合いで毎週水曜日に行っています。目的は患者さんが退院後も安心して日常生活をおくことができ、継続して治療を受けられるように環境を整えることです。そのため入院当初より退院後の生活に支援が必要となる可能性があるかを考え、さまざまな職種の人たちと情報交換を行い、最良の支援が行えるよう活動をしています。

現在、家族構成の変化から高齢者夫婦のみで生活をしている方が増えています。昨年、退院支援カンファレンスの対象となった患者さ

んの年齢別での内訳は、70～80代が72.5%を占めていました。入院中の患者さんやその家族には、退院後の生活にさまざまな不安を感じている方が多くいます。それらの不安を少しでも解決し、患者さんの生活の質（QOL）を維持するには、私達看護師だけでは対応できません。ソーシャルワーカーや訪問看護師など、病院外でのサポート役として活動している方の力はとても重要です。

私達は、これからも患者さんの健康・生活が維持できるよう、さまざまな職種の方と互いに協力し、より良い看護を提供していきたいと考えています。



退院支援カンファレンスの状況

## 宮崎大学メディア企画室の取組み

宮崎大学医学部内には、本格的な撮影機材や照明、編集機器を備えたマルチメディアスタジオがあります。ここで宮崎大学に関する動画コンテンツを作成し、“宮崎大学インターネット放送局Myaoh.TV”で公開しています（図1）。

“Myaoh.TV”には、健康に関する情報や宮崎大学の各学部の情報、学生のイベント紹介などを配信する12のチャンネルがあり、どなたでもインターネットから番組を視聴することができます（図2）。

特に4チャンネルで放映している「元気通信」

では、宮崎大学の最先端の研究から身近な健康情報などを宮崎大学の教員や医師が紹介しており、現在約60本のコンテンツがあります。毎月第1月曜日には、マルチメディアスタジオとNHK宮崎放送局を“情報ハイウェイ21”という高速回線でつなぎ、NHK宮崎放送局の夕方のニュース番組“ニュースWAVE宮崎”的“宮大通信”コーナーで生放送を行っています。

また、平成22年1月にはバーチャルスタジオシステムを導入しました。バーチャルスタジオシステムとは、実際に撮影した映像とコンピュータグラフィックス（CG）をリアルタ

イムで合成するシステムのことで、撮影はスタジオ内に用意された緑の幕の前で行われます。センサーが内蔵されたカメラを使用することで、向きや奥行きなどを計算してCGが合成されるため、カメラを動かした際にも自然な映像を作り出すことができます（図3）。

合成するCGとしては、宮崎大学オリジナルの教育文化学部大教室やニューススタジオ、ゴルフ場や花畠の背景など10パターンが用意

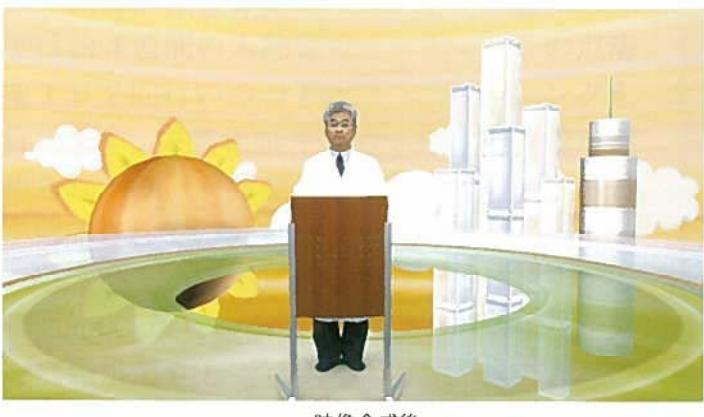
(図1) 宮崎大学 インターネット放送局Myaoh.TV



(図3)



映像合成前



映像合成後

されており、内容に合わせてCGを使い分け、バラエティーにとんだコンテンツ作成を進めています。

"Myaoh.TV"は、インターネットがつながっているパソコンから、「Myaoh.TV」か「<http://myaoh.tv/>」で検索をするとアクセスすることができますので、ぜひ、ご覧下さい。

(図2) チャンネルのコンテンツ内容

チャンネル	コンテンツ名	内 容
1ch	UOM	学長などからの情報発信
2ch	伝言板	イベントの案内等を紹介
3ch	元気eランド	栄養・運動・健康情報等を紹介
4ch	元気通信	元気通信・健康などに関する暮らしに役立つ情報を紹介
5ch	キャンパスライフ	大学行事の紹介
6ch	インフォメーション	各診療科・各部署などの紹介
7ch	ヘルスケア	健康などについての紹介
8ch	紹介番組	部活紹介やMUSB宮崎大学学生放送局が制作する番組を紹介
9ch	シニアカレッジ	シニアカレッジの催しを紹介
10ch	教育文化学部	教育文化学部の紹介
11ch	工学部	工学部の紹介
12ch	農学部	農学部の紹介

Myaoh.TVキャラクター  
みやおう



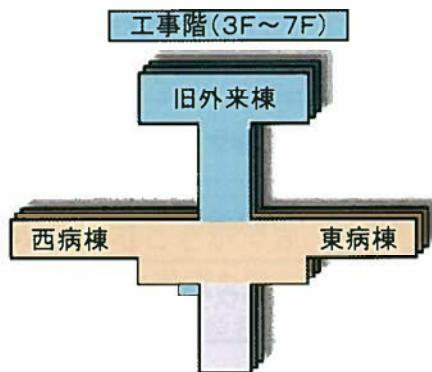
# 病棟改修工事のお知らせ

本院は、平成18年度から平成24年度までの7年間で病院再整備を計画し、現在進行中であります。その中で「新中央診療棟」、「新外来診療棟」は、既に完成し、診療を行っています。

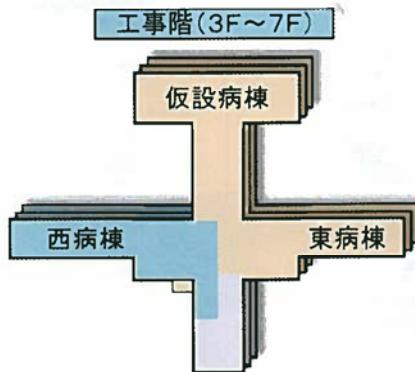
平成22年12月からは、下図に示す病棟改修計画のとおり約2年間の歳月を掛け、開院以来の病棟の大改修工事が始まります。この工事は、病棟エリアを拡充し、療養環境の向上、病室の個室率を10%から25%へのアップ、併せて職場環境の改善を図ることとしています。しかしながら、この工事期間中において入院診療を中断することのないように進めていることから入院患者さんに工事の騒音、振動等で療養環境の著しい低下を招き大変ご迷惑をお掛けすることがあると思いますので、以上の諸事情をご理解いただき、ご協力の程よろしくお願ひします。

## 病棟改修工事計画

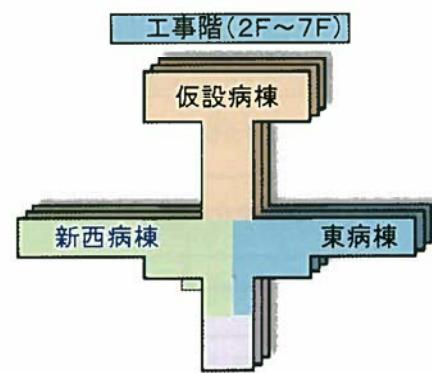
A. 仮設病棟工事(H22.12-H23.4)  
(新設エレベータ工事含む)



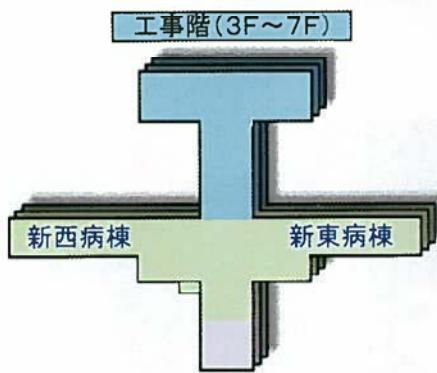
B. 西病棟改修工事(H23.5-9)  
(2階西仮設病棟工事含む)



C. 東病棟改修工事(H23.10-H24.2)



D. 東西病棟最終改修工事(H24.4-7)  
(1階東病棟改修工事含む)



E. 病棟南側改修工事(H24.9-12)



## 地域医療連携センターのご案内

地域医療連携センターでは、患者さんや御家族が安心して、退院後の生活を送ることができるように院内・院外の関係者と協力して、入院中から必要な準備をすすめています。

また、地域の医療機関や保険所等との連携窓口となっており、医療ソーシャルワーカーや看護師が在宅療養の相談や福祉の相談をお受けし、必要に応じて様々な関係職種と連携をとり対応します。

### ◆主な業務内容◆

- ①退院支援・在宅支援
- ②転院・介護施設・グループホーム等の紹介
- ③医療・介護にかかる社会資源の紹介や利用相談
- ④医療費（公費負担）や入院費についての相談
- ⑤介護保険の利用・訪問看護利用の相談
- ⑥各種申請の手続きの支援
- ⑦社会復帰支援
- ⑧療育医療・自立支援医療の手続きの支援
- ⑨受診・受療支援



私たちにご相談ください！

### ◆連絡先◆

【直通電話】0985-85-1909

【FAX】0985-85-9186

【メール】soudan@fc.miyanazaki-u.ac.jp

### ◆受付時間◆

午前8時30分～午後5時00分  
(土日祝祭日および年末年始を除く)

### 本院の理念

良質な医療を提供するとともに、医療人の育成と医療の発展に貢献し、患者さんに信頼される病院を目指します。

### 基本方針

1. 患者さん中心の最適な医療の実践
2. 地域の要望にこたえる医療の実践
3. 先端医療の開発と提供
4. 人間性豊かな医療人の育成
5. お互いを尊重し、チームワークのとれた職場環境の整備

### 患者さんの権利

～本院は患者さんの権利を守ります～

- 誰でも良質な医療を公平に受けることができます。
- 診療の内容などについて、あらかじめ十分な情報と説明を受け、理解した後、同意あるいは拒否を選択する権利があります。
- 診療録に記録された自分の診療内容について、本院の規則に沿って、情報の提供を受ける事ができます。
- 診療内容その他についてあなたの情報は保護されます。
- 患者さんの尊厳は、医療行為のあらゆる場面において尊重されます。

### 編集事務

## 宮崎大学医学部附属病院 地域医療連携センター

〒889-1692 宮崎市清武町木原5200 電話(0985)85-9165